



調一0392



外務省
 第一條
 圖書館
 41.8.24

○高陞號事件報告

小官ハ朝鮮國「シヨバイウル」島附近ニ於テ我軍艦浪速號ノ砲撃ニ因リ沈没シタル支那兵ノ運送船并ニ其乗組員等ニ關シ必要ノ事項ヲ調査スヘキノ訓令ヲ帶ヒ去月二十九日東京ヲ發シ晝夜兼行シテ本月二日早天五時佐世保ニ達シ直チニ調査ニ取掛レリ其要領ハ時々電報ヲ以テ報告シタルモ更ニ本書ヲ以テ其詳細ヲ報告ス

- 取調ノ材料左ノ如シ
- 其一 沈没船ノ船長一等運轉手及按針手ノ口述但其重要ナル事項ハ文書ヲ作リ署名セリ
 - 其二 佐世保鎮守府職員ノ質問ニ對シ右船長及一等運轉手ノ答書
 - 其三 豐島海戰及之ニ關聯セル事項ニ關シ送致セル我艦長等ノ報告
 - 其四 右船長外二名及支那軍艦操江號ト共ニ捕獲セシ該艦乗組員等ヲ佐世保ニ送致セシ我軍艦八重山艦長ノ口述
 - 其五 捕獲支那軍艦ニ乗込居リタル丁抹人「ミウレンステット」ノ口述但シ其重要ナル事項ハ文書ヲ作リ署名セリ
 - 其六 佐世保鎮守府職員ノ質問ニ對スル操江艦長ノ口供
- 沈没船ハ其名ヲ高陞ト號ス其持主倫敦ノ印度支那瀛船會社ニシテ代理店



ハ「シャーン」マヂソン「會社」又其船籍ハ英國ニ屬ス本船ノ製造ハ西曆一千八百八十三年「チット」噸數ハ一千三百五十四「グロス」噸數ハ二千三百三十四ナリ其他船体ニ關スル詳細ハ「ロイド」船籍名簿ニ記載セルヲ以テ茲ニ畧ス

船長

トーマス、ライダル、ガルスウオルズエー

一等運轉手

ルイース、タンプリン

二等運轉手

ジョーセフ、ウエルシユ

三等運轉手

ナザニエール、ウエーキ

一等機關手

ウヰリアム、ゴルドン

二等機關手

ダブルウ、エル、ハレー

三等機關手

セー、プリムローズ

以上英國人

接針手

ルーカス、エヴァンゼリスター

同

グレゴリオ、アルチウール

同

ベツロ、オリアルト

同

ドーニチオー

以上「マニラ」人

右ノ外船伴六十四名

本船ニハ支那砲兵、歩兵將校、卒合千百人及多數ノ大砲彈藥等ヲ搭載セリ外ニ旅客ノ名義ニテ「フォン、ハンチケン」氏乗込メリ其他ハ水荷ニテ貨物及旅客ノ搭載ナシ

本船ハ支那政府ノ備上船タリ其契約ノ時日ハ詳ナラサレ船長ハ上海ニテ代理店支配人ノ命令ヲ受ケテ太沽ニ赴キ太沽ニテ更ニ命令ヲ受ケテ太沽ニテ支那兵及「フォン、ハンチケン」氏ヲ載セテ出發シ朝鮮國牙山ニ向ヘリ其目的ハ牙山ニ於テ支那兵及「フォン、ハンチケン」氏ヲ上陸セシムルニ在リタリ而シテ船長ハ右上陸濟ノ上ハ再ヒ太沽ニ歸ルヘキ命令ヲ受ケ居リタリ

高陞ノ乗組員ニシテ助命シテ佐世保ニ送致セラレタルモノハ船長、一等運轉手及接針手「ルーカス、エヴァンゼリスター」ノ三名ナリ

高陞號ノ太沽ヲ出發シタルハ客月二十三日午後九時五十分ナリ高陞船長ノ云フ所ニ據レハ其前々日即チ七月二十一日ニ支那軍隊運送船八隻封書命令ヲ奉シテ太沽ヲ發シ前日即チ七月二十二日同軍隊運送船一隻太沽ヲ發シテ牙山ニ向ヘリト云フ高陞一等運轉手ノ云フ所ニ據レハ此出發十隻中三隻ハ英船ニシテ七隻ハ支那船ナリト云フ且ツ下官ハ高陞號ノ出發モ亦封書命令ヲ齎シタルモノト信スヘキ理由ヲ有スト雖モ其出處ハ姑ク之ヲ明言セスシテ止マントス

二十一日、二十二日ニ於テ多數ノ軍隊運送船ノ太沽ヲ發シタルコトハ他ノ筋ヨリ我當局者ニ達シタル飛報ト符合ス其後彼等ハ果シテ何地ニ向ヒシヤヲ確知スヘカラスト雖モ八重山艦長ノ語ル所ニ據レハ我軍艦武藏ハ豊島附近海戦ノ前日ニ於テ艦ニ支那軍隊運送船一隻ヲ牙山海ニ入リシヲ見タリト云フ是レ蓋シ二十二日ニ太沽ヲ發シタルモノナラン

高陞ハ客月二十五日ノ早天シヨバイウル島近傍ニ進行セリ支那軍艦操江號亦其右手ニ於テ小距離ヲ隔テ同クシヨバイウル近傍ニ進ミタリ此朝七時五分ヨリ八時十五分ニ至ル迄我偵察艦秋津洲吉野浪速ノ三隻ト支那軍艦濟遠廣乙ノ二隻ト海戦アリ八時半頃濟遠號高陞號ノ傍ヲ過キ西ニ向テ疾行ス高陞之ニ對シテ禮旗ヲ揚ケシモ之ニ答ヘス勿皇トシテ去ル引續キ日本軍艦三隻顯ハル蓋シ濟遠ハ走リ日本軍艦ハ之ヲ追フナリ日本軍艦ノ一隻ハ高陞ヲ見テ之ニ向フ操江ハ此狀ヲ見テ俄ニ其方針ヲ轉シ西ニ向テ走ル日本軍艦ノ二隻ハ濟遠及操江ヲ追ヘリ序ニ記ス操江ハ午後二時頃我秋津洲艦ニ追ヒ及ハレテ捕獲セラレ濟遠ハ初メ島ニ添ヒテ迂回シカメテ其形ヲ隱シ俄ニ其方向ヲ轉シ操江ノ前極メテ小距離ノ處ヲ横リテ西南ニ疾行ス其狀山東岬ヲ指スモノ、如クナリシト云フ彼レハ遂ニ遁レ去レリ若シ彼レ果シテ天津ニ直航セシナラハ中途ニシテ再ヒ方向ヲ變セシナラン

高陞ニ向ヒシハ我浪速艦ナリ其相會セシハ午前九時頃ナリ是レヨリ浪速ト高陞トノ間ノ事態ハ船長カ鎮守府職員ニ差出シタル答文ヲ其儘ニ抄記スヘシ一等運轉手ノ云ヘル所亦符節ヲ合スル如シ按針手ノ云フ所亦當時ノ狀況ヲ説クニ於テ更ニ異ナル所ナシ(別証第一號參看)

「シヨバイウル」ニ近ツクトキ日本帝國軍艦浪速ヨリ進行ヲ駐止セヨト命セラレ尋テ投錨セヨト命セラレ即チ其命ニ從ヘリ

然後浪速他方ニ航進セリ蓋シ他ノ日本軍艦ト商議ノ爲メナリキ此時余信號ヲ以テ進行スヘキヤヲ問ヘリ浪速ヨリ「ヒイウツ」オーア、デーキ、ゼ、コンセクエンセス(駐マレ然ラサレハ其責ヲ負ヘ即チ駐マラサレハ攻撃スルノ意ナリ)ト答フ幾何モナク浪速ヨリ尋問士官端艇ニテ來リ船舶書類ヲ見ントヲ求ム余之ヲ示ス又種々ノ問ヲ發ス余之ニ答ヘタル後士官ハ余ニ浪速ニ隨行センヲ求ム(船ヲ以テ隨フノ意ナリ)余之ヲ諾ス是レ浪速ハ軍艦ナルヲ以テ我ハ之ヲ拒ムヘキ力ナキニ由リテナリ斯クテ士官ハ本艦ニ還リ浪速ヨリ直ニ錨鎖ヲ切レ或ハ錨ヲ引揚ケヨトノ命令アリ然ルニ船中ノ支那將官之ヲ許サス且謂テ日ク汝若シ浪速ニ隨行シ或ハ船ヲ去ラントセバ汝ヲ誅戮シ或ハ銃殺セント而シテ兵士ヲシテ余ヲ看守セシム兵士ハ大刀或ハ銃鎗ヲ裝シタル銃ヲ以テ余ヲ看守ス余茲ニ於テ浪速ニ信號シ面陳シタキ事アルヲ以テ端艇ヲ送ラントヲ求ム此請求ニ

因リ浪速ヨリ端艇至ルヤ支那武官ハ初メ余カ舷門ニ至リ日本士官ニ面會
スルヲ許サ、リシカ終ニ繼ニ之ヲ許セシヲ以テ日本士官ニ面會シ支那武
官等本船ノ浪速ニ隨行スルヲ許サス彼等ト協議ノ途ハ只ニ太沽ニ船ヲ引
戻スノ一ノミアルコト并ニ本船ハ元ト英船ニシテ其出港シタル時ハ未タ
宣戰ヲ公布セラレサリシ時ナリシヲ以テ此事ヲモ浪速艦長ニ通知セラレ
シコトヲ日本士官ニ請ヘリ
端艇浪速ニ歸ル後幾クモナクシテ直ニ船ヲ去レトノ信號ヲ傳ヘラル因テ
「余等ハ去ルヲ許サレヌ端艇ヲ送ラレタシト答フ此時浪速ハ端艇ヲ送り難
シ」ト信號シ尋テ前橋ニ赤旗ヲ掲ケ高陞ニ向テ水雷ヲ放チ且發砲シ終ニ之
ヲ沈没セシメタリ
支那將官カ船長ニ抵抗シタル狀況ニ關シ下官ハ猶其詳細ヲ質シ支那將官ハ
死ヲ以テ浪速ノ命令ヲ拒ムノ決意ナリシコトヲ確メ得タリ此點ニ關シ船長
ノ書面陳述ノ正文左ノ如シ
支那將官ニ於テ余カ本船ヲ以テ浪速ニ隨行セント企ツル趣ヲ聞クヤ余ノ
隨行スルコトヲ拒ミ余ニ日本軍艦ニ隨行スルコトヲ許ルサ、ル旨ヲ傳ヘ
リ余之ニ答テ曰ク浪速艦ノ一發ノ彈丸ハ以テ高陞號ヲ沈没セシムルニ足
ル之ニ抵抗スルハ無益ナリト將官曰ク浪速ニ隨行セシヨリハ寧口死セシ

我レニ一千百人ノ兵勇アリ浪速ノ乗組ハ僅ニ四百人ニ過キヌ之ト戰フ何
ソ難カラント余ハ彼等ニ其事ノ愚ナルコトヲ語り且彼等支那將官ニシテ
戰ハント欲セハ余ハ余カ士官及機關師ト共ニ上陸セント此ニ於テカ彼等
ハ暴威ヲ以テ余ヲ脅カシ余ニ於テ船ヲ去リ或ハ浪速ニ隨行スルカ如キ企
ヲ爲サハ直ニ余ヲ誅戮シ余ヲ銃殺スヘシト斷言セリ(別証第二號參看)
高陞ノ砲撃ヲ受ケシハ午後零時四十分前後ナリ即チ浪速カ最初駐マレテ命
セシ時ヨリ凡ソ四時間ニ向ントス浪速カ發砲ノ極手段ヲ取ルニ至リシ迄ニ
ハ十分ノ普通手段ヲ盡セシヲ見ルニ足ル願フニ客月二十一日ニ於テ多數
ノ清國軍隊運送船ノ太沽ヲ發セシコトハ已ニ我諸艦ノ知ル所タリ而シテ該
地ノ形勢上如何ナル敵艦ノ猶諸島背後ヨリ進航シ來レルモ知ルヘカラス且
ツ同伴ノ二艦ハ正ニ敵艦追撃中ニシテ如何ナル苦戰ニ遇フモ知ルヘカラス
此軍機倭徳ノ間ニ於テ單ニ高陞號カ英國旗ヲ掲ケタルノ故ヲ以テ談判往復
ニ此長時間ヲ費ス其注意ノ周到ヲ知ルヘク又其耐忍ノ深カリシヲ證スルニ
足ル加之當時高陞號甲板上支那兵激昂喧擾ノ狀ハ已ニ浪速ノ目撃スル所ニ
シテ若シ浪速ニシテ尋常ノ手段ヲ以テ捕獲セントスルモ得ヘカラサルハ高
陞艦長等ノ陳述ニ依ルモ明ナリ(別証第三號第四號參看)即チ浪速ノ砲撃ハ寔
ニ不得已ニ出シコト知ルヘキナリ



浪速ノ船ヲ去レテ令シ赤旗ヲ揚ケテ危急ヲ警ムルヤ高陞ニ在リテハ船長ヲ始メ乗組員前後皆身ヲ躍ラシテ水中ニ投シタリ但シ此時船長ハ己ニ士官等ヲ悉ク船橋ニ集メ居リ機關部ニモ危急ノ令ヲ傳ヘタルナリ支那兵ハ船長以下ノ水中ニ投シタルヲ見テ直チニ小銃ヲ亂發シテ之ヲ射撃セリ之レト同時ニ浪速ハ一面ニ於テハ高陞ニ向ヒ最初水雷一箇ヲ發射シテ中ヲス乃ハ子側砲ヲ放チ命中シ幾モナク沈没セリ又一面ニ於テハ端船數隻ヲ出シ大ニ外國乗組員ノ救命ニ從事シタリ然レモ當時救ヒ得タルハ前文記スル如ク船長一等運轉手及按針手一名併セテ三名ノミ船長及士官ハ幸ニシテ負傷ヲ免レタルモ案針手ハ其頸部ヲ射貫セラレ今猶療養中ナリ其餘ハ生死未タ分明ナラス但シ船長等ノ陳述ニ依レハ彼等ハ概チ皆支那兵ノ爲メ銃殺セラレタルコト疑ナシ(別証第五號第六號第七號參看)

高陞號中フオン、ハンチケン氏ノ乗込居リシコトハ前ニ既ニ之ヲ記シタリ彼ハ旅客ノ名稱ヲ用フト雖モ全船他ノ旅客ナク單ニ此人一人アルハ甚タ怪ムヘキ爲メ下官ハ切ニ質問スル所アリテ船長等ヨリ別証第八號第九號及第十號ノ陳述ヲ得タリ之ヲ下官カ此人ニ關シ他ノ筋ヨリ得タル所ノ報告ト參互シテ考察スルニ此人ハ支那政府若クハ軍隊ト尋常ナラサル關係ヲ有セルコト明ナリ因テ之ヲ普通ノ旅客ト認定スルヲ要セス下官カ佐世保滯在中高陞

ニ乗込居タル日耳曼人一人助命シ日耳曼運艦ニ乗込ミタリトノ報ヲ得タリ即チ此ハハンチケン氏ナルコト疑ナシ

救命シタル船長外二人ハ捕獲船操江號ノ乗組員等ト同時ニ我八重山艦ヲ以テ佐世保ニ送致シ客月二十八日ヲ以テ佐世保ニ達セリ彼等一身上下ノ取扱ニ關シテハ救命以來始終出來ル丈ノ親切ト鄭重トヲ盡セリ

高陞號持主ト支那政府トノ關係ハ未タ其詳細ヲ得スト雖モ種々ノ事情ニ依リテ考察スルニ下官ハ今回ノ事其決シテ尋常通運業ノ關係ニ止ラサルヲ信スヘキ理由ヲ有セリ下官ノ切實ナル質問ニ對シ船長カ書面ニ記シタル所ヲ以テスルモ該船ハ支那政府ノ備上タリシコト及開戦ト同時ニ同船ハ之ヲ支那政府ニ引渡シ外國乗組員ハ悉皆其船ヲ去ルヘキコトヲ備上契約中ニ記載セルコト明ナリ(別証第十一號)

下官カ船長外二名ニ就キ調査ヲ爲シタル順序ハ第一ニ下官カ佐世保ニ赴キタル使命ノ主意ヲ述ヘ下官ハ彼等ニ向ヒ種々ノ質問ヲ發セサルヘカラス又

答辨中重要ノ事項ハ署名アル書面ヲ得サルヘカラサル爲メ下官ハ彼等ニ向ヒ下官ノ質問ニ答ヘ並ニ重要ノ事項ヲ書面ニ認ムルニ付テ異議アリヤ否ヤ

ヲ問ヒタルニ彼等ハ全然異議ナキ旨ヲ答ヘタリ因テ著々必要事項ノ調査ニ着手シタリ而シテ下官ハ此報告ヲ作ルニ當リ最モ胸襟ノ爽快ヲ覺フルハ彼

等カ各人皆其一身ノ待遇ニ關シ非常ニ我軍艦及鎮守府職員ノ厚意ニ感シ
之ヲ深謝セルコトヲ閣下ニ報スルニ在リ
下官ノ調査ハ二日間ニシテ終ハレリ因テ彼等將來ノ希望ヲ問ヒシニ長崎ニ
赴カンコトヲ冀ヘリ即チ閣下及海軍大臣訓令ノ旨ニ基キ鎮守府司令長官柴
山少將ト協議シ本月三日早天ヲ以テ少將ヨリ彼等ニ長崎ニ送ルノ意ヲ示シ
双方ノ合意ヲ以テ翌四日午前八時ヲ出發期ト定メ鎮守府ヨリ特ニ一船ヲ發
シ參謀官一人ヲシテ定刻ニ之ヲ長崎ニ護送セシメタリ但シ按針手ハ暫ク佐
世保ニ滞在シテ引續キ鎮守府病院ノ療養ヲ受ケンコトヲ希望セルヲ以テ其
請ヲ許ルシタリ
以上ハ高陞號事件ニ關シ下官カ調査シタル事項ノ要領トス關係諸書類ハ之
ヲ別封トシ均シク之ヲ閣下ニ呈ス本件ニ關シ萬國公法上我浪速艦行爲ノ當
否如何ハ下官ガ茲ニ論述スヘキ所ニアラスト雖モ之ヲ要言スレハ前ニ擧ク
ル所ノ事實アル以上ハ其行爲ノ失當ニアラサルコトハ苟モ公平ヲ持スル批
評家ノ疑ハサル所ナルヘシ

明治二十七年八月十日

法制局長官末松謙澄

外務大臣陸奥宗光閣下

○第一號 一等運轉手ノ鎮守府職員ノ質問ニ對スル答書ヨリ抄出
余ハ二十五日火曜日朝船長及三等運轉手ト共ニ甲板ニ在リテ見張セリ我船
ノシヨバイウル島ニ近接スル時一隻ノ日本軍艦ヨリ信號ヲ以テ進行駐止ヲ
命セラレ即チ直チニ船ヲ駐止シ其趣ヲ日本軍艦ニ信號セリ日本軍艦ヨリ再
信號ヲ以テ投錨セヨト命ス我船亦命ノ如クス此時右ノ日本軍艦ハ他ノ二隻
ノ日本帝國軍艦ト商議ノ爲メ他方ニ航進セリ此時船長「ガルスウオルズエ」
余ヲシテ信號ヲ以テ我船ノ航行シ得ヘキヤヲ日本軍艦ニ問ハシム日本軍艦
ハ「ヒーヴ、ツ、オー、ア、デー、キ、ゼ、コン、セ、ク、エン、セ、ス」ト答ヘタリ暫時ニシテ浪速
歸リ端艇一隻ヲ送り來リ其尋問士官我船ノ書類ヲ檢査シテ浪速ニ歸レリ於
是浪速ハ信號ヲ掲ケ直ニ錨鎖ヲ切り若クハ錨ヲ揚ケ我ニ隨行セヨト命セリ
此信號ハ大ニ支那兵ヲシテ激昂セシメ其將官ハ脅迫ヲ以テ斷然船長ノ日本
軍艦ノ命ニ從フヲ拒メリ(此時將官ハ一人ノ支那兵ニ命シテ行狀ヲシメ又彈丸ヲ裝填)依テ我等
ハ端艇ヲ送レ面談スヘキヲアリト浪速ニ信號セリ浪速ハ直ニ送ルト答ヘ端
艇一隻ニ前回ノ士官ヲ載セテ舷側ニ至ル支那將官ハ余ノ船長ト日本士官ト
ノ會見ニ立會スルコトヲ許サ、リシ然レモ船長ハ支那ニ歸航センコトヲ請
求シタルナリト聞ク端艇ハ浪速ニ歸リ浪速ハ船ヲ去レノ信號ヲ掲ケタリ我
船再ヒ干等ハ許サレズ端艇ヲ送レト信號ス浪速之ニ答ヘテ救護船ハ來リ能

ハス「ト」信號セリ此時ニ於テ支那兵ハ掲揚セル信號ノ意味ヲ知ラント欲シ我等ノ様子ヲ推考スヘキ時間ヲ得ントシ又支那兵ノ我等ニ同意スル者アルヲ防カント努メタリ我等ハ支那兵ニ語ルニ日本軍艦ノ命令ヲ乞ヒツ、アルニ以テセリ此時ニ於テ浪速ハ數回漁笛ヲ鳴ラシ終ニ其前橋ニ赤旗ヲ揚ケタリ時ニ我船ノ士官ハ皆船橋ニ集リ機關部員ニモ事變ニ對スル準備ヲ爲サン「ト」言送レリ既ニシテ浪速水雷一發ヲ放チ續テ舷側砲ヲ發射セリ余ハ支那兵ノ暴舉ヲ避ケンカ爲メ此時ヲ以テ身ヲ海中ニ投セリ而シテ海面ニ浮ヒ出タル時支那兵ノ爲メニ射撃セラレタリ余ハ遂ニ浪速ニ泳付キ其端艇ニ救上ラレタリ此端艇ハ歐洲人ヲ救フ爲メニ他ノ一端艇ト共ニ發セラレタルモノナリ

○同書文中支那將官ハ其時如何ナル命令ヲ發シタリヤトノ問ニ對スル答ハ左ノ如シ

兵士ニ彈藥及小銃ヲ與ヘ護衛兵ニ命スルニ若シ浪速ニ隨行シ或ハ船ヲ棄テ去ラントスル徵候アラハ直ニ我等ヲ射殺スヘントノ「ト」ヲ以テセリ

○第二號 一等運轉手ノ陳述書ヨリ抄出

浪速艦ノ命令ニ對スル支那人抵抗ノ狀況ニ關シ一層詳細ノ陳述ヲ要セラレ

ルニ付更ニ左ニ陳述ス

支那將官ハ信號ノ説明ヲ受クルヤ斷然余等カ命令ニ服従スルコトヲ拒ミタリ而シテ余等カ其處置ノ愚ナルヲ論シタルヤ彼等ハ余等ノ生命ヲ脅カシ番人ヲ附シ余等ニ於テ浪速艦ノ命令ニ服従スルカ或ハ自身本船ヲ去ルカ如キコトアラハ直ニ之ヲシテ余等ヲ銃殺セシメントシタリ又本船機關手ノ一名ノ言ニ依レハ機關手ハ機關室ニ入ルコトヲ妨ケラレタリト

○第三號 船長ノ陳述書ヨリ抄出

浪速艦ノ乗組員ニシテ高陞號押収ノ爲メ端艇ヲ差向クルニ於テハ支那兵ハ必ス彼等ヲ射撃シタルコトヲ予ハ確信ス

○第四號 一等運轉手ノ陳述書ヨリ抄出

愚考ニ依レハ日本端艇ニシテ本船押収ノ目的ヲ以テ再ヒ本船ニ近ツクコトアラハ船中ノ支那人ハ暴力ヲ以テ之ニ抵抗シタルコトハ最モ確カナリ

○第五號 船長ノ陳述書ヨリ抄出

水中ニ於テ余ノ周圍ニ雨注シタル彈丸ハ船中ヨリ支那人ノ發銃シタルモノ

ナルコトハ單ニ浪速艦ノ位置其艦員ノ彈丸ヲシテ余ニ到達スルコトヲ容ササルヲ以テ見ルモ明カナルノミナラス余ハ現ニ支那兵ノ余ニ發銃セル者ヲ見タリ余ニ對シ發銃シタル彈丸ノ數ヲ以テ見レハ余カ運轉手、機關手及按針手ハ支那兵ノ發銃シタル銃丸ニ依リ殺サレタル者アルハ甚タ事實ニ近キモノト考ヘサルヲ得ス

○第六號 一等運轉手ノ陳述書ヨリ抄出

水中ニ投シタル歐洲人ニ對シ支那人ノ發銃シタル數ヲ以テ看レハ歐洲人中陸ニ達スル以前必ス射殺セラレタルモノアルヲ恐ル
余ノ水中ニ在リテ高陞號ヨリ泳キ去ラントスルニ際シ船中ノ支那人ハ余ニ發銃シタリ是レ單ニ浪速高陞兩船ニ對スル余ノ位置ヨリ見テ明カナルノミナラス(其位地ヨリスルニ浪速ノ彈丸ナレハ余カ上ヲ超過スヘケレハナリ)余ハ慥ニ支那人ノ甲板上及下甲板ノ舷窓ヨリ發銃スルヲ見受ケタリ

○第七號 按針手ノ陳述書ヨリ抄出

余ハ甲板上ノ非常水桶ヲ見テ以テ余カ生命ヲ保護スルニ足レリト思考シ直ニ之ヲ冠テ水中ニ飛込ミタリ此ノ時支那人ハ一時ニ五六挺ノ小銃ヲ以テ舷

窓ヨリ余ニ擊掛ケタリ余ハ當ニ負傷死ニ至ルヘキ所ナルヲ僅ニ逃レタレトモ一發ノ彈丸余ノ頸部ヲ貫ケリ余ハ遂ニ氣絶シタリ余ノ感覺ノ復スルヤ余ハ「スパニヤ」人ナリ余ハ「スパニヤ」人ナリ余ヲ救ヘ余ヲ救ヘト呼ビ直ニ一端艇ニ救上ケラレタリ此レ日本軍艦ニ屬スル端艇ナリキ余ノ救上ケラレタルトキニ際シ端艇乗組ノ士官ハ最早歐洲人ハ居ラサルヤ最早歐洲人ハ居ラサルヤト呼ビ尋子タレモ余ハ疲勞甚シクシテ之ニ答フルコトヲ得サリキ余ハ第一ニ救ハレタル外國人ニシテ引續船長其次ニ運轉手モ亦救ヒ上ケラレタリ

○第八號 高陞號船長ノ陳述書ヨリ抄出

高陞號ノ旅客フオン、ハン子ケン氏ハ獨逸人ナリト思ハル氏ハ本船カ太沽ヲ拔錨セントスル間際ニ乗込ミタリ氏ハ本船ニ至ルヤ氏ハ余ニ向ヒ氏ノ乗船ヲ待チ居リシヤト問フ余ハ氏カ乗船アルコトヲ知ラサリシ旨ヲ答フ此ニ於テ彼ハ「フオン、ハン子ケン」ナルコトヲ名乗リ總督ヨリ高陞號ニ乘リ込ミ朝鮮ニ行クノ許可ヲ得タルコトヲ話セリ

氏ハ乗込ノ支那將官及其他ノ支那士官ト航海中談話スルコト多シ此レ自然余ヲシテ彼ノ余ニ對シ更ニ支那將校ニ關係ナシト話シタルニ拘ラス支那將校ノ事務ト何等カノ關係ヲ有スルモノナルヤノ疑ヲ起サシメタリ氏ハ余ト

支那人トノ間ノ通辨者アリ
「フオン、ハンチケン」氏ハ身体大且健壯ナリ高陞號沈没後最終ニ彼ヲ見タル片
ハ共ニ水中ニ在リシ時ニテ氏ハ余ヨリ遙ニ前ニ進ミ居リタレハ蓋シ泳テ「シ
ヨバイウル」島ニ達セシナラン
余カ始メテ「フオン、ハンチケン」氏ノ名ヲ聞キタルハ一千八百八十七年ニシテ
氏ハ當時旅順口造船所建築受負會社ノ主幹タリ

○第九號 一等運轉手ノ陳述書ヨリ抄出

高陞號乗込ノ歐人ニシテ船員ニ屬セサルモノ、中ニ一名ノ紳士アリ余ハ其
獨逸人ナルヲ信ス其姿勢ヲ以テ見レハ軍人ナルカ如シ彼ハ余ニ對シ單ニ自
己ノ快樂ノ爲メ朝鮮ニ行ク旅客ナリト稱スルモ乗組ノ支那士官ト相知ルモ
ノナルコト明カナリ彼ハ善ク支那語ヲ話セリ余ハ船用其他ノ爲メ本船ノ或
ル部分ニ兵士ノ出入ヲ禁スル等其他種々ノ事件ニテ支那兵ニ望ム處アルニ
當リ數々彼ニ依頼シタルコトアリ彼ハ常ニ余ノ望ムカ如クニ其事ヲ遂行セ
リ彼ハ浪速艦ノ我船ニ發銃セントスル前ニ支那將官ト秘密ノ談合ヲ爲セリ
余カ最終ニ彼ヲ見タルトキハ彼ハ「シヨバイウル」島ノ方向ニ向ヒテ遙ニ進メ
リ彼ハ威勢能ク且ツ巧ニ泳テリ彼ハ一見四十歳前後ニテ丈ケ高ク髮髯黒ク

慥ニ軍人ノ姿勢アリ

○第十號 按針手ノ陳述書ヨリ抄出

船中ニ一名ノ旅客アリ余ハ其日耳曼人ナルコトヲ信ス彼ハ不斷支那武官ト
談話セリ本船ニハ他ニ二名ノ眞ノ支那將官アリシト雖モ彼モ亦支那將官ノ
一種ナリト思考ス

○第十一號 船長ノ陳述書ヨリ抄出

余ハ船舶雇入契約書ノ文言ニ依リ支那日本間開戦ノ機ニ臨マハ高陞號ハ支
那政府ニ引渡シ歐洲人ノ士官ハ船ヲ去ルヘキ約定ナルコトヲ了知セリ

○丁抹人ニ關スル報告

高陞事件ニ付キ佐世保出張中更ニ捕獲船操江號ニ乗込ミ居タル丁抹人エチ、
ゼ、ミウレンステットニ關シテ調査シ及ヒ處分シタル顛末左ノ如シ
同人ハ支那軍艦操江號ニ乗込居リタルヲ以テ同船ノ俘虜ト共ニ佐世保ニ送
致セリ

同人ノ職業ハ電信技師ナリ(電信線建設並ニ電信行使共)明治十四年即チ西曆千八百八十一年
六ケ年間ノ契約ニテ大北電信會社ノ傭員ト爲リ支那ニ來リ明治十九年即チ
西曆千八百八十六年マテ該社ニ止マリ同年始メテ支那帝國電政局ノ傭ト爲
リ直ニ朝鮮ニ派出セラレタリ仁川、京城、義州線ノ建設ハ彼大ニ與リテ力アリ
ト云フ同國ニテ昨年五月マテ電信技師タリ昨年五月天津局ニ移サレ該地ニ
テ補助員タリト云フ同人ノ云フ所ニ據レハ同人ノ奉職セルハ所謂インペリ
アル、チャイニース、テレグラフ、アドミニストレーション(帝國支那電政局)ト稱
スルモノニテ純粹ノ支那政府電信廳トハ別物ナリト云ヘリ仁川、京城、義州線
ハ所謂帝國支那電政局ノ管理ニ屬セリ同局ハ天津ニ本局ヲ置キ特ニ一ノ道
台ヲ置テ之ヲ管轄セリ同人ノ傭條約ハ本年三月十日ニ終リ而シテ該條約書
ハ在朝鮮京城日耳曼領事館ニ預ケアルノ故ヲ以テ未タ改訂ノ手續ヲハ經サ
ルモ其後引續キ俸給ヲ受ケ居リ電政局トノ關係ハ未タ絶エタルモノニ非ス

ト自白セリ同人目今ノ俸給ハ月額二百五十弗ナリト云フ同人ハ多年ノ苦辛ニテ八千餘圓ヲ貯蓄シ而シテ京城ニ於テハ多少ノ財産(所有家屋及貸金等)ヲ有セリト云フ彼ノ今回ノ朝鮮行ハ首トシテ自己ノ財産ヲ戰亂ヨリ救フニ在リ道台ヨリ萬一戰亂ノ爲メ電信附屬ノ財産ニ危険アラハ出來得ル丈ケ之ヲ保存スルノ手段ヲ取ルヘキノ訓令ヲ受ケタルモ是レ特ニ派出ノ命令ヲ受ケタルニハ非ラスト云ヘリ彼ノ云フ所ニ據レハ仁川京城義州線ハ若シ朝鮮政府ニテ適當ノ代價ヲ賠償スレハ朝鮮政府ノ有ト爲シ得ヘキモ其時期ニ至ルマテハ所謂帝國支那電政局ニ屬スト云ヘリ又京城電信局ノ家屋ハ朝鮮政府ノ所有ナルカ故ニ彼カ保存ノ訓令ヲ受ケタルハ實際電信機械並備品及仁川局ノ家屋ニ過キスト云ヘリ彼ハ今回二ヶ月ノ賜暇ニテ渡韓セントシタルニテ道台ノ紹介ニ因リ芝罘ヨリ操江ニ乗込メリト云フ彼ノ云フ所ハ彼ノ一身ノ全班ヲ盡セルヤ否ヲ確言スヘカラスト雖モ彼カ所謂帝國支那電政局ト猶關係ヲ有セリトノ自白ハ以テ彼ノ一身ノ處分ヲ決スルニ足ルヲ以テ下官ハ更ニ酷査ヲ加フルコトヲ爲サ、リキ

常ニ厚遇ヲ受ケサル無ク寸毫モ苦訴スヘキ所ナシト明言セリ
彼ハ又云ヘリ開戦彼カ如キヲ知ラハ如何ナル事情アルモ決シテ渡韓ヲ企テサリシナラント彼ハ又朝鮮支那間ニ於テ支那商船及日本郵船會社船ノ通航ノ絶エシ爲メ操江ニ搭シタルヲ悔恨セリ彼ハ近時身体ノ不健康ナルヲ歎セリ又留置ノ延長シテ其一身ノ將來ノ全ク破壊ニ歸センコトヲ悲メリ
彼ハ萬一解放ヲ得ハ如何ナル誓約ヲモ呈センコトヲ發言セリ下官ハ乃チ閣下ノ訓令ニ基キ別紙ノ如ク日清開戦中ハ中央ト地方ト問ハス支那官省ノ使用ニ服セサルコト何等ノ事項ヲ問ハス日本ニ不利ナル所爲ヲ爲サ、ルコト及朝鮮及上海以北ノ支那各港ニ行旅シ若クハ留住セサルコトヲ誓約セシメ而シテ又閣下及海軍大臣訓令ノ旨ニ基キ鎮守府司令長官柴山少將ト協議シ當人即チ「ミウレンステット」ノ希望ニ因リ之ヲ長崎ニ送付スルノ儀ヲ定メ少將ヨリ之ヲ當人ニ傳へ本月六日早天士官一名ヲ付シテ之ヲ長崎ニ護送シタリ
是レ操江號乗組丁抹人ニ關スル取調及處分ノ要領ナリ茲ニ之ヲ報告ス

明治二十七年八月十日

外務大臣陸奥宗光殿
法制局長官末松謙澄

(別紙)

支那大連

二十二

余ハ自ラ進ミ且ツ自由ヲ以テ日本帝國政府ニ對シ其代表者タル法制局長官
 末松謙澄閣下ニ依リ茲ニ日清交戦中ハ中央ト地方トヲ問ハス清國政府ノ爲
 事ニ行動ス若シ其使用ニ服セザルコト又右戰爭中ハ日本ノ利益ニ妨害ト
 大ニ行ハキ行爲ハ一切之ヲ爲サ、ルコト且戰爭ノ進行中ハ一切上海ヨリ北ナ
 支那各港ニ行旅シ若クハ居住シ又ハ一切朝鮮ニ赴カサルコトヲ誓約ス此
 條件ハ現今ノ戰爭終極ニ至ラサ、ル間ニ於テノミ有効ナルヘシトノ趣意ヲ以
 テ茲ニ之ヲ記述ス

千八百九十四年八月五日
 佐世保ニテ

白一萬一箱減マ
 一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百